

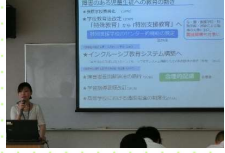
令和元年度 特別支援学校寄宿舎指導員研修講座

特別支援教育課

特別支援学校寄宿舎指導員30名の方々が、幼児児童生徒の理解と生活指導に関する研修を行い、資質・能力の向上を目指しました。

★9:30~10:20 講義★ 「特別支援教育の動向」

国や県の動向について、文部科学省や教育庁特別支援教育課から出された資料をもとに、最新の情報を伝達しました。



★10:30~12:00 講義・演習★ NPO法人ひと・まちネットワーク

飯塚 裕治先生

「特別支援学校寄宿舎指導員の専門性」

昨年度まで研修センター特別支援教育課主査として寄宿舎指導員の研修講座もご担当いただきました。寄宿舎を利用する児童生徒数が減少する中、寄宿舎の意義と必要性、そして寄宿舎存続に向けた寄宿舎指導員に求められる専門性や生活指導に求められる指導力等について、寄宿舎指導員の方々にエールを送るべく、熱の入ったご講義をいただきました。

★13:00~16:00 実践発表・研究協議 「寄宿舎における課題解決に向けての取組」★

【実践発表】

県立下妻特別支援学校
寄宿舎指導長 阿久井 弘子 先生



「寄宿舎魅力度アップ大作戦」等、様々な実践をご紹介いただきました。また、受講者からの質問にも丁寧に応じてくださいました。

【研究協議（事例検討）『不適応行動の低減』】

NPO法人ひと・まちネットワーク 飯塚 裕治 先生



事例について、不適応行動を低減させるための一つの手法として応用行動分析学の考え方を教えていただきました。状況の整理→情報収集→プラスの視点→指導の目標→関わり方を考える 等、ワークシートを活用し、各学校ごとにグループを作り協議を行いました。

<研究協議のまとめ>

- 1 子どもの見方を変え子どもの味方に!
- 2 チームとして子どもの支援を!

<最後に>

学校の補完的な役割を果たしてきた寄宿舎からの転換
→「専門職」としての地位の確立へ

